

み言葉は

いのちの言葉

フィリピ4,13

私を強めてくださる方のおかげで、
私にはすべてが可能です。

時折、私たちは喜びと力に満たされ、全てがスムーズにいき何でもできるように思えるときがあります。逆に、何もかも難しく感じられる一日もあります。ささいな事で身近にいる人を愛せなかったり、自分にとって大切な価値観や生き方を、誰かにうまく伝えられなかったとき。

ひとりぼっちではない

つらいのは、誰からの助けや支えも期待できず、一人で困難に立ち向かわなければならないと思うときでしょう。

使徒パウロも、喜びと苦しみ、成功と同時に他者からの無理解を、強烈に味わった人でした。でも彼は決してあきらめず、勇気を持って自分の使命を果たそうとしました。彼はスーパーヒーローだったのでしょか？

すべてが可能です

彼は、自分は弱く、与えられた使命にもふさわしくない者だと感じていました。その秘密を次のように明かしています。「私を強めてくださる方のおかげで、私にはすべてが可能です」と。

パウロは、自分の人生にいつもイエスが共にいて下さるのを発見しました。

私たちの大きな秘密

福音の言葉を実践するときすべてが可能になります。み言葉がその日その日に道を示してくれ、何をどう生きたらよいかを教え、これでよいのだという確信を与えてくれるからです。

他の人たちと愛の交わりに生きるなら、私たちの間にイエスがいらっしゃいます。それなら私にも全てが可能となり、一致の力に支えられるでしょう。

私たちの経験



いのち

アブラム 15歳

分かち合うことは大切!

Mは、学校のクラスメイトで彼との関係はとてむずかしいです。ぼくは、何年かいのちの言葉を生きるように努力しているけれど、福音が語るようにMを愛するのは不可能に思われました。

ぼくがカトリック信者だとわかっていて、キリスト教についての悪口をいっては喜んでいました。ぼくがキリスト教を擁護すればするほど、ぼくをからかって喜んでいました。ぼくがそうした態度をいやがればいやがるほど、もっとひどくするようになり、宗教に対してだけでなくぼく個人に対してもいやがらせをするようになりました。

ぼくはそのことに耐えきれず、学校でどう対応していいかわかりませんでした。あるとき休み時間にかつとなって暴力に訴えそうになりましたが、友だちがぼくを制止してくれました。今でもぼくはそのことを恥ずかしく、こんな自分を受け入れ難く思います。

とても悲しく思っていた時に、ひとりでこれを乗り越えることはできないとわかりました。それで、いのちの言葉を生きているグループでぼくの苦しみを分かち合い、助けを求める決心をしました。

彼らと話しているうちに、これはぼくの信仰が試されている時だとわかりました。グループの力でぼくは、もうひとつの頼もさしださなければならないと感じました。悪に対して善で報いなくてはならないという決心と努力を求められているのを強く感じました。

Mとの関係は少し変わりましたが、ときどき批判的な言葉は言われ続けています。でもその苦しい時もイエスがさげすまれた苦しみをそこに見るようにしています。グループの友だちの一致と祈りによってぼくは新しく力を与えられたと感じています。

おんなじような経験したことない?